

秋山会長：

本日はまず、最近の景気認識について申し上げ、その後、関経連の施策についてお話ししたいと思います。

1. 景気の現状認識

まず、日本経済、関西経済については、個人消費、設備投資、輸出のすべてが好調でバランスの取れた回復が続き、これまでの外需に頼ったものではない自律回復に向かっており、もはやデフレ状況にはないと言えるように思います。

したがって現在、日本銀行が2001年3月から続けている量的緩和政策の変更については、景気の現状から見て、解除する条件が整いつつあるのではないかと考えています。

数字でみると、まず日本経済の10-12月期の実質GDP速報が年率換算で5.5%増となり、伸び率が前期より4.1ポイントのプラスと大幅に拡大しています。

物価面で見ても、先週金曜日に発表されたCPI（消費者物価指数）が0.5%となり、プラス基調が定着しつつあると思います。このままいくと、名目金利がゼロであるため、実質金利がマイナスという状況になってしまいます。

また、日銀総裁が国会で答弁されたように、ゼロ金利のままですと、家計から金融機関、あるいは企業への所得移転が過去10年間で約171兆円ということになりますので、国の金融政策としては、このまま無理して緩和を延長することが極めて不健全であると言わざるを得ません。

むしろこれからは、解除後の政策運営をどのようにして、金融市場に混乱をもたらさないようにするかが大変大事になってくると思います。その際、現在議論されておりますように、「インフレターゲット」のような数値目標に必ずしもこだわる必要がなく、もっと柔軟な対応が必要ではないかと思えます。

量的緩和策解除の次のステップである短期金利をいつの時期に引き上げるかが、これからの大きな問題点であり、このタイミングを誤らないこと、並びにこれによって、金融市場に混乱を起こさない配慮が今後の重要な政策課題になってくると思っています。

その際、一番わが国にとって望ましくないのは、経済成長率を大幅に上回る長期金利の上昇であると思います。従って、長期金利の上昇をいかにして抑えるか、いわゆる「イールドカーブ」の上がり方が余り急激にならないようにする、ということが大事だと思います。

ご存知のように長期金利は、「経済成長率＋その国のリスク」であります。わが国の財政再建をきっちりすることを内外に示すとともに、金融市場に混乱を起こさないために金融当局が明確な道筋を示す、更に、金融の中立性を内外に示すことが国の信用を高め、リスクを小さくすることに繋がり、長期金利の必要以上の上昇を招かずに済むことになると思います。

つまり「金融の目標値を定める」よりも国として中長期の財政再建政策や機動的な金融政策が、今の時代に最も求められていると思います。

また、経済界にとりましては、これから日本経済への信用を取り戻すには、いかにして日本経済の潜在成長力を高めていくか大事です。そのためにはイノベーションが強く求められると思います。これまで関経連としては、潜在成長力向上のための諸施策を行ってきましたが、本日はこの中で、特に新しい施策について紹介したいと思います。

2. 関経連の主な取り組み

3つありますが、1つめは、新たなイノベーションパワーを作り出すこととして、イノベーションを生み出す学研都市を盛り上げる「ゆめはんな連携事業」を推進していきたいと思います。2点目に、アジアとの交流・連携を促進する「インドネシア・オーストラリア使節団」および「アジア金融システム・関西研究会」について申し上げます。そして3点目に、「潜在成長力を高めるインフラ整備」について、お話したいと思います。

(1) 学研都市と東大阪・大阪とのゆめはんな連携事業

第一に、先端産業が集積している学研都市については、手元にお配りしているように、東大阪・大阪との交流を促進する「ゆめはんな連携事業」を進めてまいりたいと思います。

イノベーションの融合・連鎖の必要性については、先月の財界セミナーでも議論されましたが、今後更に大学や企業の研究拠点が集積する学研都市で、まさに関西最大の「実践の場」として先端産業の融合を行っていききたいと思います。

その点で、今月27日に開業する「近鉄けいはんな線」は、イノベーションの融合を担う東大阪と学研都市を結び、更には、大阪湾ベイエリアまでを結ぶことで大阪中心部の「ビジネス集積」との連携を図っていけるものと考えております。

「近鉄けいはんな線」の開業にあわせて、3月22日のキックオフ・シンポジウムを皮切りに6月までの間、約50の連携事業やシンポルイベントを集中的に実施いたします。

いくつかご紹介しますと、関経連・ATR・近鉄が協力して6月下旬以降、学研奈良・登美ヶ丘（とみがおか）駅で「ロボット実証実験」を行う予定です。

具体的には、駅利用者にダイヤ等の情報を提供する「案内ロボ」や、「ロボ劇場」などを企画しており、利用者にロボット技術を体感してもらうとともに、駅の利便性の向上を図ってまいりたいと思います。

また交流・連携イベントとして、学研都市と中関村との交流協定締結を受け、関係者とともに、交流フォーラムを開催いたします。そのほか、日中間の産学交流や、中国から学研都市への進出を促進してまいりたいと考えています。

（２） アジアとの交流・連携施策

第二に、アジアとの交流・連携施策については、アジアが関西の潜在成長力を高める上で非常に大きなポテンシャルを持っており、それとの交流・連携がカギであると考えております。

（インドネシア・オーストラリア使節団）

一方、世界経済を見ますと、米国を中心とするNAFTAやEUなどの広大な地域で、地域経済圏の結束が強まっています。

こうした中で、現在のアジア地域を見た場合、環境・エネルギーや食糧安全保障、あるいは金融システムなどの点で、いくつかの弱みを抱えております。

こうしたアジアの弱みをカバーできるように日中韓の北東アジア、アセアンに加えて、オセアニアやインド等の南アジアをも含めた「拡大アジア共同体」を目指すことにより、NAFTA、EUに対応する共同体形成を目指すことが必要になってくるのではないのでしょうか。そのために、インドネシア、オーストラリアへの訪問団を派遣して参りたいと思います。

特にオーストラリアからは、エネルギー資源に関しては一般炭、原料炭を含めた石炭の6割、食糧に関しては牛肉の9割を輸入しており、エネルギー資源、食糧市場の安全保障上で重要な存在であり、そういった面でも交流を深めていきたいと思っております。

（アジア金融システム・関西研究会）

また、アジアとの連携の上では、金融システムが大事であるということで「アジア金融システム・関西研究会」も既に立ち上げております。

先月、米田・大阪証券取引所社長、森本・近畿財務局長、稲葉・日本銀行大阪支店長、玉越・三菱東京UFJ銀行副会長、松下・松下電器副会長といった方々の参加を得て、トップ会合を開催し、意見交換を行いました。

我々としては、「ヨーロッパの金融センターに変貌を遂げたパリや、ニューヨークに負けない先物市場を誇るシカゴの例を参考に、関西でも市場機能強化を図っていききたい」と思っております。

さらに、「関西は伝統的に先物市場が強いので、先物市場を中心にアジアの証券取引所としての機能を大証が持つべきだ」ということについても、推進すべきというご意見が強かったと思います。

そこで我々としては「ユーロプラス」、これは各国の制度や協力体制をいかにすべきかについて、産官学あげて行っている（ヨーロッパの）組織であります。それに準じた「関西プラス」という研究会を立ち上げていききたいと思っております。

また、関西の強みである先物については、昨年の京都議定書の発効を踏まえたCO₂などの「排出権先物」や「アジアバスケット通貨先物」を研究対象にしていこうということで合意したところです。

(3) 地域の潜在成長力を高めるインフラ整備

第三に、潜在成長力を高めていくために不可欠なインフラの整備について述べたいと思いません。

地域の競争力強化にとっては、物流をはじめとするネットワーク機能の強化が必要であることは言うまでもありません。しかしながら、関西の現状をみると、必ずしも十分なネットワークインフラが整備されていないのではないかと考えております。

例えば、名神高速道路は西日本と東日本の大動脈であり、日本の（東西間を通過する）物流の約40%が名神を利用しておりますが、年間30回以上もの通行止めがあります。是非我々としては、第二名神の大阪～高槻間の道路を作っていただきたいと申し上げ、西日本道路株式会社においても、「最優先課題である」ということで、1兆1000億円の工事費を6800億円にコストダウンし、「是非やりたい」と申し上げたのにも関わらず、着工先送りとなっております。

かたや、現在、日本橋上の首都高速道路が景観上の問題から地中化されるべきだ、と総理

が提唱されたことで、最大7,000億円も投入され、移設が前向きに進められようとしています。

このように、首都圏で行われる社会資本整備は必ず価値が高く、地方で行われることは必ず無駄になる、という首都圏に社会資本投入を集中する姿は、世界の一部の発展途上国が首都圏に投資を集中した、いわゆる「開発独裁」と言われる姿と似ているのではないのでしょうか。

我々としては、今後国の発展を図っていく上で必要なインフラ整備については、各方面に訴えていきたいと思えます。

(4) 伝統文化の振興

最後に、伝統文化の振興について一言申し上げます。来月4日から11日まで「浪花花形歌舞伎」が上演されます。これはビジネスマンにも見ていただけるように、開演時間を30分繰り下げて19時にしておりますので、是非皆様方にも観ていただきたいと思っております。

以 上